

八王子の食卓から世界を知ろう

1. 指導のねらい

- 子どもたちにとって身近な食事を支える食材の産地について、近くの店などを調べたりする活動を通して、毎日の食卓がさまざまな国や地域に暮らす人々の手によって支えられていることに気付く。
- 日本の食料自給率や輸入の状況、また、自然災害や紛争などで十分な食料を得られない国について関連付けて考えることにより、食事を残さずに食べ、地元でとれる食材や旬の食材を積極的に選ぶとする地産地消につながる態度を身につける。
- 市内在住の外国人市民や外国人留学生から母国の食事について話を聞いたり、自分たちとの共通点や相違点を話し合ったりする活動を通して、他者とコミュニケーションする力を身につける。

2. 学習指導要領との関連

- ・ 小学校 総合的な学習の時間 第3-1-(5)
- ・ 小学校 総合的な学習の時間 第3-2-(7)
- ・ 小学校 社会 第5学年 第2-2-(2) -ア

3. キーワード

国産、外国産、八王子産、道の駅八王子滝山、食料自給率、地産地消、外国人留学生

4. 資料活用のポイント

- 「道の駅八王子滝山」の売り場の写真から、八王子産の野菜や果物に興味を持つ。【資料1】
- えびやまぐろがさまざまな国から輸入されていることを理解する。【資料2-1、2-2】
- 小麦粉や大豆の食料自給率の低さを理解する。【資料3-1、3-2】

◇活用したいデータソース◇

- ・ 帝国書院 統計資料・統計地図
- ・ 東京書籍 5年上 社会科
- ・ JICA 小冊子「世界の食料」
- ・ JICA HPより「どうなっているの？世界と日本」

アドレス <http://www.jica.go.jp/world/interdependence>

授業の進め方

【1次】「家で食べているものを考えよう」

- ① 自分の家での食卓の風景や好きな食事を絵に描く。
- ② 描いた絵をもとに、食事に使われている食材がどこで作られているか考える。
- ③ 外国産の食材で知っているものをあげる。(例) バナナ、牛肉など

【2次】「店で売られている食材を調べ、どこから来ているか考えよう」

- ① 近くの店やスーパーで食材の産地を調べる。
(例) 肉、魚介類、野菜、果物、乳製品、大豆製品など
- ② 「道の駅八王子滝山」で売られている食材を調べる。(例) 野菜、果物、卵、米など
- ③ お店や「道の駅八王子滝山」に並んでいた食材の中で外国産のものを世界地図に書き込む。
- ④ 日本がさまざまな国から食材を輸入していて、食料自給率が低いことを理解する。
- ⑤ 地球上には、食料不足による病気や飢えで死亡する子どもがいることを理解する。
- ⑥ 地元でとれる食材を積極的に選ぼうとする地産地消について理解を深める。

【3次】「外国人留学生に母国の食卓の様子を聞いてみよう」

- ① 自分たちが描いた食卓の絵や世界地図を外国人留学生に見せながら、外国産の食材が多いことを伝える。
- ② 外国人留学生から、母国の食卓の様子や食文化、輸入、日本の食べ物について感じたことなどを聞く。

【4次】「食の大切さで気付いたことを話し合おう」

- ① 毎日の食卓が多く国や地域に支えられていることや外国の食事との共通点や違い、食を大切にするためにできること、感想などについて各自文章にまとめる。
- ② まとめたことをもとに、グループで話し合う。

<ポイント>

- ・ 毎日の食卓を支える食材に目を向け、近くの店や「道の駅八王子滝山」で産地を調べる。
- ・ 日本がさまざまな国から食材を輸入していて食料自給率が低いことや、地元でとれる食材を積極的に選ぼうとする地産地消について理解を深める。
- ・ 外国人留学生に自分たちの食卓の様子を伝えるとともに、外国人留学生の母国の食卓の様子を聞くことにより、コミュニケーションを図り、異文化理解を深める。
- ・ 食を大切にするために自分にできることを考え、意見を交換する。